

第1回（仮称）宇都宮市文化振興基本計画策定懇談会議事要旨

日時：平成17年2月18日（金） 午前9:30～11:30

会場：宇都宮市役所 議会棟3階 第1委員会室

出席委員：赤羽委員，安久都委員，阿部委員，稲見委員，上野委員，柿沼委員，田中委員，星野委員
山村委員，和久委員，梅林委員，小山委員

事務局：福田教育次長，渡辺課長，森田係長，荒井総括主査，板倉総括主査，石和主任主事

1 開 会（森田係長）

2 教育次長あいさつ（福田教育次長）

3 委員紹介（森田係長）

4 事務局自己紹介

5 議 事

(1) 会長・副会長選出

- ・会長 安久都委員
- ・副会長 阿部委員

(2) 会議の公開・非公開の決定について

- ・会議は公開，議事録は公表とすることで決定。
- ・報道関係者の写真撮影について議事に支障が無い範囲で許可する。

(3) 計画策定イメージについて

【田中委員】

・計画策定にあたり，国や県の施策と整合性を図ることも重要だが，「宇都宮らしさ」を盛り込んでいく必要がある。

【山村委員】

・県の「とちぎ文化振興ビジョン」は，国の「文化芸術振興基本法」が制定される以前に策定したため，見直しの時期に来ている。これからは市民の手作りによる文化の振興が求められている。文化ボランティアの養成やNPO団体の育成が課題と考えている。

【上野委員】

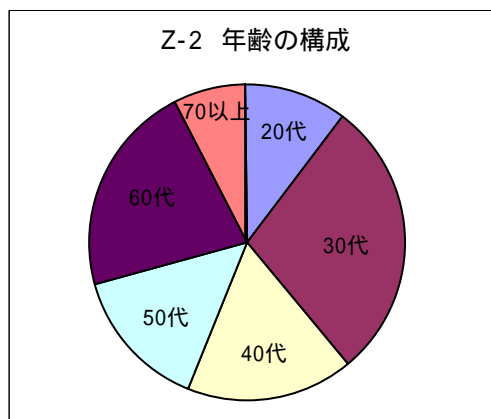
・栃木のメトロポリタンに相応しい魅力あるまちづくりをすすめるため，「LRT」の計画に文化を盛り込んでエネルギーにまちづくりを進めてほしい。

(4) アンケート等調査結果について

【小山委員】

- ・市民モニターアンケート回答者の年代構成を教えてください。
年代に偏りない構成となっている。

	回答数	構成比
(1) 20代	10	10.53%
(2) 30代	27	28.42%
(3) 40代	16	16.84%
(4) 50代	14	14.74%
(5) 60代	21	22.11%
(6) 70以上	7	7.37%
無回答	0	-
計	95	100.00%



【梅林委員】

- ・国や県の計画を見ても「食文化」について触れているものがない。宇都宮には、「しもつかれ」という誇れる「食文化」が残っている。「餃子」だけでなく、「しもつかれ」も全国に発信してほしい。

「年中行事」をまとめていく中で、「しもつかれ」は必ず出てくる宇都宮の身近な「食文化」であると考えている。なお、「年中行事」については、今後の懇談会においてお示ししたい。

【上野委員】

- ・ロビンソン跡にラーメン街もできるようなので「しもつかれ」など食文化も施策大系の「個性を生かしたまちづくり」に盛り込んでも良いのではないかと思います。

【和久委員】

- ・アンケート結果を見てすべての市民が文化と何らかの関わりがあることがわかり更に良いものを市民に提供していきたいと思った。私は青少年を支援する文化事業を実施しているが、子どもたちに文化継承していく上で、指導者を養成していく事が大切だと感じている。

【星野委員】

- ・「ジャズのまち」はともすると、宇都宮はジャズしかやらないのかとのイメージを与えてしまう。渡辺貞夫さんは、「クラシックはジャズの基礎」と言っている。「クラシック」と「ジャズ」が並列して音楽振興につながるイメージづくりをしてほしい。
- ・石の里音楽祭に携わったが、文化庁の補助事業はリーダーにお金を出す仕組みをとっている。これからは、指導者を養成し、リーダーを育てていくことが大切だと感じた。指導者の育成について計画の中で具体的にうたってほしい。

【赤羽委員】

- ・計画に「宇都宮らしさ」を盛り込むことが大切だと思う。

・音色を聴いてどのような色彩を思い浮かべるか。音楽を絵にする取組や百人一首の絵を古代の色彩で再現する取組など専門家同士が連携し、文化を幅広く関連させていく試みが必要だと思う。

・中国の幼稚園児と交流する機会があったが、日本の子の絵とは違う。伝統文化や料理などが絵にふんだんに盛り込まれている。外国の子どもたちと日本の子どもたちの絵を同時に展示する展覧会を実施するなど姉妹都市の文化交流を推進していく取組も面白いと思う。

【稲見委員】

・市民がたくさん実施している文化活動を束ねて、発信することが行政の役割だと思う。たとえばJR宇都宮駅等市外からの人々も集まるような場所に情報発信の拠点を常設で構えてほしい。

【柿沼委員】

・二荒山神社と宇都宮城を結ぶ通りを「宇都宮の歴史軸」としてまちづくりを進めている。ナンバーワンではなくオンリーワンを目指すことが大切であり、平成19年の「宇都宮城」オープンに併せて「百人一首」や「妖精」、「文化財」などが一緒に動き出せば良いと思う。

【上野委員】

・宇都宮市には、文星芸術大学と宇都宮短期大学、美術と音楽の専門大学があるので、美術館や文化会館などと連携した施策を検討してほしい。

【小山委員】

・正月休みあけに、小学校低学年の子どもたちに「百人一首」のことを尋ねても知らなかった。私が子どもの頃は「坊主めくり」という遊びでカルタをまず知っていた。そういう遊び方を伝えるという振興の仕方もあると思う。

・美術館で団体鑑賞の子どもたちに「無料だからまた来てね」と言ったら「親が連れて来てくれない」という。

・P4「市民の文化（継承）活動状況」にある3割の「活動可能層」をいかに巻き込んでいくかが重要だと思う。

【山村委員】

・文化に関係する団体を縦割りではなく横断的に連携できる仕組みが必要だと思う。

・栃木県には文学館が無く、県を含めて「文学・文芸」の振興が弱いので十分配慮したものにしてほしい。

【阿部副会長】

・文化遺産は後世に継承していくよりも今の生活にどう活かすかが現在求められている。文化を地域の特色としてジャンルに関係なく総合的に活用し、宇都宮市の個性を打ち出していくことが必要だと思う。

・メディアがこれだけ発達しているのに、市民が「情報が足りないと感じている」

という結果を重要視しなければならない。「文化・産業」などの情報を日常的に取得できる環境を整える必要があると思う。

【安久都会長】

・文化会館と総合文化センターは相互に催物チラシを置いている。県のチラシは、市役所1階には置いていないようだ。工夫すればいろいろなところでPRできる。

【上野委員】

・宇都宮美術館の計画当初は、市民ギャラリーや体験教室、ゲストハウスなどの計画があった。建物を増築してプロでなくても作品を展示できる環境を整備してほしい。

【赤羽委員】

・パブリックアートの考え方を屋外広告物や都市デザイン分野にも広げる必要があると思う。また、「ジャズ」や「百人一首」などまちづくりとの連携を図れば更に面白いと思う。

【安久都会長】

・市制100周年の際、商工会議所主催で「二荒山神社」の「薪能」を約450年ぶりに復活開催した。この試みは6年間続いたが、現在は、財政が厳しく開催を休止している。「宇都宮城」がオープンすれば、「薪能」を復活することもできると思う。市民憲章にうたわれている「文化の薫るまち」を実現したい。

【小山委員】

・お金が無くても出来るのが文化だと思う。ゲストハウスが美術館に無いと振興できないのではなく、ホームステイを受け入れてくれる家を募集したり、市民と協力しあいながら、振興につなげていくことが必要ではないか。

(5) これからの懇談会スケジュールについて

・次回会議 平成17年3月23日 AM10:00~11:30 会場：未定

7 その他

【赤羽委員】

・計画のタイトルに（仮称）が使われているが、いつ取れるのか。
計画が決定された段階で名称も決定する。

【安久都会長】

・アンケートには、面白い意見がある。次回までにアンケートに目を通しておいてほしい。

8 閉 会（森田係長）